



平成 22 年 2 月 8 日

各 位

東京都千代田区三番町 2 8 番地  
アマタホールディングス株式会社  
代表取締役会長兼社長 熊野英介  
(コード番号: 2195 大証ヘラクレス)  
問合せ先 取締役経営管理本部長 清水太朗  
電話番号 (03) 5215-7766 (代表)

## 当社子会社による循環資源製造所開設に関するお知らせ

当社子会社のアマタ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：熊野英介、以下「アマタ」）は、地上資源事業の京浜工業地帯臨海部への進出を決定し、平成 22 年 4 月に神奈川県川崎市に新たな再資源化拠点、「川崎循環資源製造所」を開設いたします。

### 記

#### 1. 川崎循環資源製造所の開設

アマタは持続可能社会の実現を目指し、「廃棄物」を価値ある「地上資源」と捉え、原料や燃料にできるものを発見・加工し、別の用途を見つけることで新たな資源として再生する「地上資源事業」を30年以上にわたり展開しております。アマタの再資源化技術から生まれた製品の一部は特許として認められ、日本国内だけでなく他のアジアの国でも活用されております。現在、社会経済は世界同時不況といわれる厳しい状況にあり、製造業を中心に市場の縮小傾向が見られますが、一方で資源やエネルギー枯渇等の環境問題は深刻化しており、物質やエネルギー循環を促進しようという社会ニーズは、今後ますます高まると予想されます。

そこでこのたびアマタは、新たな再資源化拠点を設立し、市場のニーズに応えるべく京浜工業地帯臨海部に「川崎循環資源製造所」を開設することを決定いたしました。

#### 2. 川崎循環資源製造所設立の意図と構想

京浜工業地帯は日本の工業の中核を成し、多くの企業の生産拠点となっていることから再資源化のニーズが高く、市場規模も大きい地域であり、臨海部は船舶輸送による出入荷に高い利便性を有しています。そのため川崎循環資源製造所は、首都圏はもとより、日本全国に向けた有用な再資源化拠点となると考えております。

また、アマタは平成22年5月にも福岡県北九州市に循環資源製造所の開設を予定しており、これにより、アマタは日本の大動脈である太平洋ベルト地帯に位置する、茨城県筑西市・兵庫県姫路市を含む計4地域に再資源化拠点を構えることとなります。またこれらに加えて、食品残渣

などの有機系の未利用資源からエネルギーを生み出す京都府京丹後市の循環資源製造所や、全国300箇所以上の独自の再資源化ネットワークを含めた流通網を駆使することにより、国内はもとより、東アジア全体の資源循環やCO2削減への貢献を目指します。

### 3. 川崎循環資源製造所の概要

- (1)名 称 : 川崎循環資源製造所
- (2)業 務 内 容 : 独自の「調合」技術を用いて、多種多様な産業廃棄物から、安定した品質のセメント原料（原料系、燃料系）を製造する
- (3)予 定 地 : 神奈川県川崎市川崎区扇町1番1
- (4)敷 地 面 積 : 1,452㎡
- (5)操業開始時期 : 平成22年4月予定
- (6)主 要 設 備 : 調合設備
- (7)主 要 製 品 名 : セメント原料（燃料系、原料系）
- (8)最大生産能力 : 約157.25t／日を予定
- (9)受 入 品 目 : 以下8品目を予定（燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、ばいじん、金属くず、動植物性残渣）

### 4. 川崎循環資源製造所の主な強み

- (1)独自の「調合」技術で、成分、量、性状が一定でない廃棄物を安定的に100%リサイクル
- (2)臨海部に位置しており、港湾を活用した日本各地への出入荷が可能
- (3)自社内に循環資源開発センターを設けており、既存の受け入れ枠にとらわれず、市場ニーズに応じた新商品・技術開発やそれに伴う柔軟な設備増強が可能

### 5. 川崎循環資源製造所の事業計画

川崎循環資源製造所では、初年度、約10,000 t /年の製造を見込んでおり、次年度以降は毎年生産量をアップし、事業規模を拡大していく予定です。また、今年度中には破碎設備の導入を予定しており、期限切れ商品や販促物の在庫など社名が印字された「横流し」リスクのある取り扱い困難なものを、破碎により「機能破壊」して安全に100%再資源化するなど、アマタ独自のネットワークと技術開発力を活かし、市場における再資源化のニーズに対応していきます。

(ご参考) アミタ(株)の循環資源製造所一覧



以上